論理国語 単元指導計画

日時	令和〇年〇月〇日 (〇)	場所	2年〇組教室
クラス	2年〇組 (〇人)	授業者	〇〇 〇〇
科目名	論理国語	単元名	信頼性を吟味するために
使用教材	「なぜ私たちは労働するのか」 (内田 樹)	使用教科書	『新 論理国語』 三省堂
教材観	本教材は、「若者たち」の労働観が形成される要因を二つ挙げながら、最終的には「なぜ私たちは労働するのか」に答える形で筆者の主張をまとめている。筆者の主張や根拠を批判的に検討しながら、労働する理由について自分事として考えていくきっかけとなる教材である。		
生徒観	国語の授業に対して前向きな姿勢であり、自らの考えを発信しながら学習に取り組むことができる。筆者の主張を理解する力はあるが、目の前の情報を批判的に捉える力についてはまだ課題が残る。ただし生徒の中には、さまざまな教材に触れるなかで、新たな気づきをもっている生徒もいる。その気づきをかき消してしまうのではなく、検討することのきっかけへとつなげたい。		
指導観	本教材を通して、日常のなかでじっくり考える機会をもちにくい「働くこと」について改めて考えるきっかけとしたい。今年度、家庭科において「働くこと」について学んだことを思い出させながら、この内容を国語として取り上げる意義を伝える。2年生の3学期、そして2月にインターシップを控えたこの時期にこの教材を取り上げることの重要性を踏まえながら、より身近なこととして迫ってくる自らの進路について自分事として考えていくときに検討する機会を何度もつくることの大切さを実感させたい。		

1 単元の目標

- (1) 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができる。〔知識及び技能〕 (2)ア
- (2) 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 B(1)ウ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の言語活動

筆者の主張について、関連する資料を基に内容や妥当性を検討したり批評したりしながら吟味して、「労働」に対する自らの考えを論述する。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 B(2)ア)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ((2)ア)	① 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 (B(1)ウ)	① 教材を読む前と内容を吟味した後で、自分の考えを論述することを通して、筆者の主張の妥当性について批判的に検討できるよう、「労働」について自分事として粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画 (全5時間)

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○単元の目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ○「労働する理由」について自分なりの考えをもつ。 ※単元プリント、授業プリント① ○漢字や語句の確認をする。	[知識・技能] ①	「記述の確認」
2	○「やりがい」について自分なりの考えをもつ。 ※授業プリント② ○筆者の主張（「やりがいのある仕事」）を理解する。	[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ①	「記述の確認」 「記述の点検」
3	○筆者が示している根拠（「受験勉強」と「バイト」）について理解する。 ※授業プリント③	[知識・技能] ①	「記述の確認」
4 (本時)	○筆者の主張（労働の本質と「特異なメンタリティ」）を理解する。 ○筆者の主張について、妥当性や信頼性を批判的に検討する。 ※授業プリント④	[思考・判断・表現] ①	「記述の分析」
5	○筆者の主張（生き延びるために労働をする）を理解する。 ○「労働する理由」について自分の考えをまとめる。 ※単元プリント	[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①	「記述の分析」

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○単元の目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ○「労働する理由」について自分なりの考えをもつ。 ※単元プリント、授業プリント① ○漢字や語句の確認をする。	・国語で教材を通して「労働」について考えることを意識させる。 ・家庭科で「働くこと」について学んだことを振り返らせる。 ・自分の考えと「勤労意識に関する調査結果」を比較させる。	[知識・技能] ① 「記述の確認」単元プリント、授業プリント① ・記載内容を確認する。

2	<p>○「やりがい」について自分なりの考えをもつ。 ※授業プリント②</p> <p>○筆者の主張（「やりがいのある仕事」）を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも自分がどのようなときに「やりがい」を感じるのか意識させる。 ・年長世代と若者世代、それぞれの「やりがいのある仕事」を理解させる。 	<p>[知識・技能] ① 「記述の確認」ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載内容を確認する。 <p>[思考・判断・表現] ① 「記述の点検」授業プリント②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載内容を点検する。
3	<p>○筆者が示している根拠（「受験勉強」と「バイト」）について理解する。 ※授業プリント③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の労働観の二つの根拠を理解させる。 ・二つの根拠の妥当性に意識を向けさせる。 	<p>[知識・技能] ① 「記述の確認」授業プリント③、ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載内容を確認する。
4 (本時)	<p>○筆者の主張（労働の本質と「特異なメンタリティ」）を理解する。 ○筆者の主張について、妥当性や信頼性を批判的に検討する。 ※授業プリント④</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「特異なメンタリティ」に該当する身近な例で考えさせる。 ・筆者の主張が「多くの」若者に該当するか、別の資料を参考にしながら批判的に検討させる。 	<p>[思考・判断・表現] ① 「記述の分析」授業プリント④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張について資料を参考にしながら批判的に検討しているか、記述を分析する。
5	<p>○筆者の主張（生き延びるために労働をする）を理解する。 ○「労働する理由」について自分の考えをまとめる。 ※単元プリント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の筆者の主張には、明確な根拠が示されていないことに気づかせる。 ・考えに変化がないことが悪いことではなく、そう考える理由を大切にするように意識させる。 	<p>[思考・判断・表現] ① 「記述の分析」単元プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張に対して自らの考えが述べられているか、記述を分析する。 <p>[主体的に学習に取り組む態度] ① 「記述の分析」単元プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して「労働」について考えの深まりがあるか、記述を分析する。

《本授業における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

「論理国語」の「内容」の〔思考力、判断力、表現力等〕「B読むこと」に関する指導については、「内容の取扱い」(1)イに「80～90単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること」と示されている。このことを踏まえ、本単元では、「B読むこと」に関する資質・能力を目標として掲げ、単元のまとまりの中でその育成を重点的に図る指導と評価の計画を示している。

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能]①の「主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができている」状況を、「筆者の主張を適切にノートにまとめたり、前時の授業内容を振り返りながら自分の考えをアンケートで回答したりしている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、ノートや授業プリントへの記述を中心に確認し評価する。

本文の読み取りができていない状況を C と捉え、個別に声をかけてヒントとなる本文の記述を示したり、前時のノートの内容を隣同士で共有させたりして読み取りを行うよう促す。

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考力・判断力・表現力等]①の『『読むこと』において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができている』状況を、「筆者の主張について資料を参考にしながら批判的に検討している」姿（「おおむね満足できる状況」(B)）と捉え、授業プリントの記述を分析し評価する。

記述ができない状況を C と捉え、筆者の主張を確認し資料の項目の内容と比較してみたり、それぞれの年代の、会社を辞めた理由の第1位から第3位に着目してみたりするよう促す。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「教材を読む前と内容を吟味した後で、自分の考えを論述することを通して、筆者の主張の妥当性について批判的に検討できるよう、『労働』について自分事として粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「単元の終わりに改めて『労働』について自分の考えを論述している」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、単元プリントの記述を分析し評価する。

本単元を基にした気づきや学びがまとめられず、努力を要すると判断する状況を C と捉え、これまでの授業プリントを参考に、単元を通して気づきや学びがどこかにないか探るよう促す。

6 学習指導案(4時間目/全5時間)

本時の目標：筆者の主張について資料を参考にしながら批判的に検討することができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] B(1)ウ

言語活動：個人の努力が集団の利益として分配されることに納得できないから三年で仕事を辞める状況が、多くの若者たちに当てはまるとする筆者の主張を批判的に検討する。

本時の展開：

【使用する資料】授業プリント④、別紙 資料A、資料C：現代の国語（第一学習社）の教科書 p.102 より

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 3分	☐ 前回の学習内容を 確認する。 ☐ 本時の目標を確認 する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の授業の内容を確認する。 ・ 筆者の主張について批判的に検討することが目標であることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業プリントの2つの項目を見ながら、より抵抗感がある内容を選ばせる。
展開① 20分	☐ 筆者の主張を理解 する。(労働の本質 と「特異なメンタ リティ」) ☐ 「特異なメンタリ ティ」に該当する 身近な例で考える。(授業プリント ④の表面)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働の本質は、「個人の努力が集団の利益に『かたちを変える』こと」にあると筆者が考えていることを理解する。 ・ 特異なメンタリティとは、「個人の努力が、逆に多くの他者に利益として分配されることを求めるような」ものであると筆者が考えていることを理解する。 ・ 筆者の主張について、身近な例（挨拶）で考えることを確認する。 ・ 挨拶の場合、1人が元気な挨拶をする（個人の努力）ことで、学校全体の評価が上がる（多くの他者の利益になる）という仕組みが一致することを理解する。 ・ 挨拶の例を授業プリントにまとめ、全体で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶の例をまとめたあと時間に余裕がある人は、部活動や実習、学校祭などの場面でも該当するものがあるか思い出すよう促す。 ・ 給料の有無の違いを留意させながら、これまでに「特異なメンタリティ」を経験していることを意識させる。
展開② 25分	☐ 筆者が考える、若 者たちが「三年で 辞める」理由を確認 する。 ☒ 個人の努力が集団 の利益として分配 されることに納得 できないから「多 くの若者」が仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「それが納得できない」とは「『特異なメンタリティ』が納得できない」ことであることを確認する。 ・ 「そのせい」の内容が、「若者が個人の努力が集団の利益として分配されることに納得できないせい」であることを確認する。 ・ 「多くの若者」の「多く」とは、どれくらいの割合をイメージするか考え、全体で共有する。 ・ 仕事を辞める理由として、筆者が述べているもの以外の例を考え全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多く若者が「特異なメンタリティ」に納得できていないかのように筆者が論を進めていることに疑問をもたせる。 <p>【目標Aに対する評価規準と評価方法】 規準：筆者の主張について資料を参考にしながら批判的に検討することができて</p>

	<p>を三年で辞めるとする筆者の主張を検討する。 (授業プリント④の裏面)</p> <p>□全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張が「多くの若者」に該当するか配布された別紙資料を参照しながら検討することを確認する。 ・資料Aを例にして、説明を聞きながら筆者の主張を検討する流れを確認する。 ・3～4人のグループになり、今度は自分たちで資料Cを参照しながら筆者の主張を検討する。 ・「筆者の主張の批判材料となる部分」と「筆者の主張の補強材料となる部分」を探し授業プリントに記述する。 <p>・書いた内容について、各グループの代表者数名が発表し全体で共有する。</p>	<p>いる。</p> <p>方法：「記述の分析」(授業プリント、机間指導) [状況Cに対する手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張を確認させ資料の項目の内容と比較してみたりするよう助言する。 ・それぞれの年代の、会社をやめた理由の第1位から第3位に着目するよう助言する。 ・状況に応じて、考え方のヒントを全体に共有する。 <p>・他のグループの発表を聞きながら、必要に応じて授業プリントにメモをするように促す。</p>
<p>まとめ 2分</p>	<p>□本時の目標を確認する。</p> <p>□次回の内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書かれた内容について「検討する」姿勢は、他の場面でも有用であることを改めて確認する。 ・次回は筆者の考える「労働する理由」を読み取ることを確認する。 ・最後に、改めて「労働する理由」について自分の考えをまとめる予定であることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの考えの根拠を示すときに、どのような情報に基づくか説得力が増すのか意識させる。